

令和3年度第1回松江市総合教育会議

日時：令和3年7月6日（火）9：40～ 場所：松江市立義務教育学校玉湯学園

出席者：松江市長 上定昭仁
松江市教育長 藤原亮彦
松江市教育委員 多々納道子、塩川寛、原田順子、金津式彦
学校関係者 (玉湯学園) 校長 前田眞利、教頭 川合昌宏、教頭 後藤康太郎
市長部局 政策部長 山根幸二、政策次長 佐目元昭
政策企画課長 井原崇博
教育委員会事務局 副教育長 寺本恵子、副教育長 成相和広
教育総務課長 玉木一男、学校教育課長 太田強
学校教育課指導研修係長 金山剛志
学校教育課小中一貫教育推進係長 安部顕
教育総務課総務係長 今田浩二

○成相副教育長

それでは、皆様お揃いですので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。これより令和3年度第1回松江市総合教育会議を開催いたします。

本日、司会を務めさせていただきます副教育長の成相でございます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、開会にあたりまして、上定市長より挨拶申し上げます。よろしくお願いたします。

○上定市長

皆様、おはようございます。松江市長の上定でございます。本日は今年度第1回の総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。教育委員の皆様方には、大変お忙しいところ、本市の教育行政の推進に多大なる御尽力をいただいております。まずもって御礼を申し上げます。ありがとうございます。

今日は、4月1日に開校しました玉湯学園、こちらで授業の視察も含めて、私のほ

うも実は非常に楽しみにしてまいりました。私自身も玉湯学園と同じように、この4月に松江市長に就任をいたしました。教育につきましては、本市として最優先に取り組んでいく重要課題の1つであるというような認識を非常に強く持っております。

まず1つは学力の向上ということはもちろんなのですが、やはり子供たちの視野を広げて、個性を伸ばして、そして自らが主体的に自らの将来を選択できる力を身に付けるといったことは非常に重要だと思っております。そのためにどういったことができるかというのを本当に真剣に考えていく必要があるというように思っておりまして、今日は限られた時間ではありますけれども、実際に授業の視察もさせていただき、その中で2つ、大きくポイントとしてICT活用教育とふるさと教育、この現場に触れさせていただく機会というのは、私にとっても非常に貴重な機会です。それを踏まえて今後どのように教育に結び付けていくことができるのかといったところを考えていきたいというように思っています。

ICT活用教育につきましては、今回、タブレットを利用した形での教育現場ということになりますが、松江市としましても、昨年度までにタブレットを小中学校の児童生徒に対する配布というのを済ませまして、今年度はそれをいかに活用していくかというステージに入っているというように思います。電子黒板の整備なども進めているところなのですが、とにかくタブレット、情報機器を配布することが目的のような捉えられ方になってしまっていて、本当はそこがスタートであって、それを手段として、一体どういった教育を施していくことができるのか。それが子供たちの学習意欲の向上であったり、教育の充実につながるというところを考えていく、まさにそのステージだというように思っています。

また、ふるさと教育につきましても、地元の光る地域資源にフォーカスをして、例えば松江城というのを1つのトピックとした教育というのも進めておりますし、また、地元企業の皆様に講師になっていただいたキャリア教育なども含めて、広い意味でのふるさと教育というのを進めているところではあります。

ただ、私が思うのは、このふるさと教育というのは、単なる地元のことをよく知るという機会だけではなくて、将来にわたって、例えば人口減少対策であったり、定住対策、UIターン、ここにものすごくつながってきていると思うのです。私自身もそうだったのですが、一度地元を離れることがあっても、また帰ってきたいという思いだったり、自分が育ててもらったという思いだったりというのは代えがたいもので、後

で形成しようと思っても身に付くものではないと思うのです。そういう意味で、ふるさと教育というのは、実はものすごく重要で、いろいろなところにつながってくる、まさに誇りとか愛着を育てるといふ、非常に貴重な機会だということに思っています。

ですから、今日はそういった意味では非常に大きなトピックス、実際の授業を視察させていただけるということで、繰り返しですが、私自身も楽しみにまいりましたし、また、視察が終わった後に、また皆さんと自由活発に議論をさせていただいた上で、現状の認識と今後どのような方向性でこの教育を捉えていけば良いかといったところについての意見も取り交わさせていただきたいと思っておりますので、何卒よろしくお願ひいたします。

○成相副教育長

ありがとうございました。

それでは、議事のほうに入っていきたいと思いますが、本日の出席者につきまして、次第の裏面にあります出席者名簿を御覧いただけますでしょうか。そこに出席者名簿が載せてあります。

第1回目ですので、改めて市長のほうから順番に、自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○上定市長

改めまして上定でございます。自己紹介ということですが、私は元々松江市の東出雲町の出身でございまして、東出雲中学校から松江南高を卒業して、大学は九州大学というところに進みました。

私自身、何か教育分野において特に大きく知見があるわけではないのですが、日本政策投資銀行という政府系の金融機関に勤めておりました、そのときに、まさに教育というのが学校だけで行われるものではなくて、例えば幼稚園・保育園と老人ホームを合築するような施設に対する融資というのをやったのです。これはなかなか教育ということ、座学的なところではなくて、むしろそのような児童生徒が、実際におじいさん・おばあさんの世代と一緒にあって、例えば読み聞かせをしてもらったり、逆に高齢者の方の世話をしたり、そういった実際の活動を通じて学び得ることというのはたくさんあるなど、そういった学びの場をつくることというのがすごく重要で、なか

なか交わらないものを1つにできるような、そういった機会をつくり出すというのも仕事としてやらせていただいていたのです。

ですから、実際に学力を向上させる、あるいは教科書を見るというのも必要なのですが、それ以上にいろいろ工夫の施し方というか、教育というのが、何か凝り固まった概念の中にあるわけではなくて、教育を施すということではなくて、生活の中にある教育であったり、情操教育なども含めて、そういった重要性には着眼していきたいというように思っております。

私も皆様から自己紹介をいただいて、その上で私自身も今までの経験も生かしつつ、皆さんと議論を取り交わしたいと思っておりますので、是非よろしく願いいたします。

○藤原教育長

失礼します。4月1日から教育長を拝命しております藤原でございます。改めてよろしく願いいたします。

今、私はこれまでの経験というのを生かしながら、一般行政と教育行政の違いというのを日々実感していきまして、こういう性格ですから、おかしいと思ったことをどんどん言って、教育委員会の皆さんには随分刺激を与えているのではないかなというようには思っております。

より良い教育行政を目指して、引き続き頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日も多分良い議論ができると思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○塩川委員

失礼いたします。今年の5月から教育委員を拝命いたしました塩川寛と申します。よろしく願いいたします。

私は元教員でして、退職してから今年で8年目を迎えます。最後の勤務の学校が松江市立第三中学校でした。いろいろなことがありましたけれども、良い経験をさせていただいたなと思っております。

教育委員のお話をいただいたときに、私に何ができるかいろいろ考えましたけれども、とにかく自分の経験とか体験などを伝えながら恩返しをしていこうかなという気

持ちでいるところです。

特に元教員ということですので、日頃から頑張っている教職員、児童生徒のために何かお役に立てればなと思っています。よろしくお願いいたします。

○多々納委員

失礼いたします。教育委員の多々納道子と申します。教育委員になりまして2期目の3年目ということで、一番経験が長くなりました。

私、前身が島根大学の教育学部に勤務して、教員養成に携わっておりましたので、皆様方に大変お世話になりましたし、また、御協力いただいているところでございます。

玉湯学園には竣工式と開校式に来させていただきました。すばらしい施設だなと、本当に全力を挙げて良い校舎を作っていただいたことを感じさせていただきました。あとはこれをいかに教育効果が上がるように生かしていただけるかということではないかと思います。先ほどこの会が始まる前に校長先生と少しお話をいたしましたら、先日の参観日に、写真を撮るために1年生から9年生までの全クラスを回っただけで40分かかったというお話を伺いまして、先生方に御負担をかけていることあるのかなと思いつつ、しかし、1年生から9年生まで通してその成長に関われるというのは教師冥利に尽きることはないかと思いました。

本日は子供たちの授業に触れ合うことができるということで、大変楽しみにしております。どうかよろしくお願いいたします。

○原田委員

おはようございます。今年4月から教育委員をしております原田順子と申します。

私は宍道で生まれまして、関東や九州へ出た後宍道に戻ってきておりますので、私もUターン組で、いどこ会ができるぐらいみんな戻ってきております。そういうところも何か役立てられるのかなと考えております。

また息子と娘がおりますので、保護者枠ということで何かお役に立てればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○金津委員

おはようございます。教育委員をさせていただいております金津でございます。私はこれで3年目になります。お声掛けいただいた当時言われたのは、普段企業経営に携わっておりますので、「若い経済人の視点で教育を見てほしい」と言われまして、そういうところでお役に立てればなという思いでさせていただいています。

先ほど市長も言われましたけれども、教育というのは最重要だと。私も教育こそ地域発展の礎かなというように思っておりますので、そういった点でお役に立てれば良いなと思いながらやらせていただいております。よろしく願いいたします。

○成相副教育長

ありがとうございました。

それでは、本日のスケジュールについて御案内します。本日視察させていただきまず ICT 機器を活用した事業、ふるさと教育について、本校の前田校長先生から玉湯学園の取組の概要を御説明いただきます。始めのところで義務教育学校についてもお話していただく予定にしております。

続けて教室へ移動しまして授業の様子を御覧いただきます。その後、この会場に戻った後に意見交換に移らせていただきたいと考えております。

ざっと時間の目安ですが、学校の取組概要を約 15 分、視察は 2 つの授業合わせて 50 分程度、意見交換が約 1 時間程度の予定をしております。よろしく願いします。

それでは、前田校長先生に御説明いただきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

○前田校長

おはようございます。玉湯学園の校長をしております前田眞利と申します。どうぞよろしく願いいたします。

御多用の中、本日はようこそおいでいただきました。新しい校舎でもありますので、なかなか私も今年になって責任の重大さを感じているところですが、より良い学校づくりを今進めているところです。

まず、お手元に保護者説明で使いましたリーフレットがあると思います。開いていただいて、一番下に1年から9年まで表になっております。教育課程は小学校と中学校というのがありますので、これを小学校・中学校と言っては、「義務教育学校って何」

ということになりますので、前期の教育課程・後期の教育課程、前期課程・後期課程というように呼び名を変えています。

松江市は小中一貫教育の中で4・3・2制をとっております。本校も4・3・2を中心として教育を進めていっております。それぞれ1年から4年までを前期ブロック、5から7年を中期ブロック、8年から9年を後期ブロックというように、ブロックと課程で使い分けをしています。なかなか最初はこの使い分けも戸惑うところがあったのですが、「小学校籍の先生方」とか、「中学校籍の先生方」というように職員も呼び合っていました。今は前期課程、後期課程と呼ぶようになっています。

それぞれ今までと生活スタイルが全く違いますので、いろいろなところで戸惑いもありながら今進めているところですが、大体の学校生活の概要は、この表にしてあるところになります。学園になって大きく変わっているところというのを、今度は『玉湯学園が開校して』というA4の1枚ものを見ていただけますでしょうか。

私は玉湯学園の校長として、この義務教育学校の目指すところを、学校を核とした地域づくりに貢献できる学校をつくりたいというように思っています。地域とともにある学校をここでできればなというように思っています。隣接している幼稚園もありますので、玉湯の地域の方が、ここに来れば玉湯の子供たちの様子が全て分かるというような捉えをしていると良いかなというように思っています。

学園の特色としては、やはり小中一貫教育の中で、1年から9年までいますので、一貫した教育ができる。1年生が9年生のお兄ちゃん・お姉ちゃんの姿を見て、「私もあなりたい」、「こうなりたい」というような、「身近にロールモデルがあると良いだろうな」、「そういう生徒になってもらいたいな」という期待も込めています。

世間でよく言われる中一ギャップの緩和解消、これもやはり目指すところにしております。いろいろなところで期待をされているところはあるのですが、生徒指導面、学力育成面、情緒面というような課題があると思います。そのために何をするかというところが一番下の表に四角で囲っています。

教員も1つの部屋に前期課程・後期課程の教員と一緒に生活をしていますので、教員間での情報共有がとても密になることを期待しています。情報共有をすることによって指導支援の道しるべができる。今はなかなかそういった情報共有が頻繁にできているかという、まだ緒に就いたばかりですので、これもまたキャリアパスポートとか、カルテとか、エコロジカルマップ等々を教職員が作りながら、情報共有ができ

るようになればなというように思っています。

こうした教員が子供たちをいろいろな視点で見ることができる、これが一番良いところかなというように思いますので、総合的な学習を要とした教科横断的なカリキュラムをつくったり、あるいは今日見ていただきますが、ICT 活用図書館活用教育、こういったものを核とした情報リテラシーの育成をする。

それから、教科担任制を一部導入しています。これが習熟度別の学習につながったり、あるいは中期ブロックばかりではなくて、前期ブロックにも教科担任制が入れないかどうかというのをこれから研究やら検討していきたいというように思っています。

何よりも一番今私が感じているのは情緒面でして、写真もいくつか載せていますが、下級生と上級生の仲がすごく良くなっています。一般的に言われる中学生の顔の表情がすごく穏やかになりました。にこやかになっている子供たちの姿を見ると、こちらでも微笑ましくなります。そういった上級生と下級生のつながり、縦割り掃除などもしていますが、一緒になって掃除をする、あるいは交流活動を通していろいろなつながりができると良いなというように思っています。

今後の課題は、コロナ禍ですので、今、いろいろな行事・活動に制限・制約があります。体験的な学習も、外に出かけていくものについては中止をしているところです。特に福祉体験などは、子供たちにとっても良い教育の場ではありましたが、やはりこちらから出かけることはならぬということで中止をさせています。いろいろな体験的な学習が減ったことによって、子供たちの学びが思ったように効果は上がっていないのかなというように私は思っているところです。

これに代えるようなものがほかにないか、あるいは交流ということで、学校の中でいろいろなことができないかというのを今探っているところです。ちょうど体育祭のことで、この間も職員会議で大変な議論といたしますか、同日開催でやりたいのですが、やはり熱中症とかコロナのことを考えると、どうしても短時間にしないといけない。そうすると種目が減る。高学年が低学年の手伝いをするとなると、1日ごとになると、これもまた体調面はどうなのかとか、いろいろな議論があって、今、本当に1日開催はしたいのだけれども、かなりスリム化した形でやらざるを得ないかなと。議論を尽くしながらこういった行事を考えている最中でございます。

それでは、もう1枚、ICT 活用教育とふるさと教育について概要をお話させていただきます。A4の1枚ものがあると思います。

本校の目指すところもあるのですが、これは東北大学院の堀田龍也先生の講演を私も聞いたことがあるのですが、この資料を一部使わせていただきました。ちょうど一番左下のところに四角で囲っていますが、ICT 環境整備がようやく入りました。今後何をするかという、上に上がって情報活用能力、あるいはタブレット、あるいはこういった ICT を使った学び方を学ぶ、そういったことにつながるのではないかと。それが今度は各教科での効果的な活用につなげていくという、下から上に見る表になります。

右側はどういったことができるのかというので、「拡大ができますよ」、「書き込みができますよ」、「保存もできますよ」というような、こういった利用価値があるというものです。

こういったものを配備していただいて、まず最初にしないといけないのは、教員もそうなのですが、子供たちの使い方にあたってのルールを策定しないといけません。整理もしないといけないということで、昨年度から取り組んではいたのですが、義務教育学校になって前期課程・後期課程の教員が合わさったところで、もう 1 回ルールの整理をしました。

こういった ICT も使いながら、どういう子供を育てるのか、学校教育目標につながるものでないといけませんので、やはりツールとして使っていくためには情報活用能力、学力育成につながるもの、主体的・対話的で深い学びにつながるものにならなければいけないというように考えています。

教師のほうは学びの併用ということで、授業力・指導力の向上が期待できます。ものがあると、そのものを使わないといけませんので、必然的に授業が変わると思います。そういったことは研修をしないと教員のスキルアップも望めないと思いますので、今後は研修をしないといけないというのと、右の写真にも載っておりますが、どういったことができるのかということ、教員一人一人がスキルアップをするためにも、うちの中でメディア委員会という校内組織をつくっております。これを中心に、どういう使い方をしたら良いかというのを考えさせているところです。

これはどうしても、松江市の図書館活用教育で進んでいるのですが、学び方を学ぶという指導体系表があるのでありますが、これと合致していますので、これも生かしながら進めていくという形にしています。

今日見ていただくのは英語の授業になりますが、まだ緒に就いたばかりですので、

期待されているような授業になるのかどうか分かりませんが、御覧いただきたいと思います。

ふるさと教育については、先ほど市長もおっしゃいましたが、やはりふるさとに愛着と誇り、そういったものを育むものですので、地域の教育資源を使って育てていきます。

玉湯という地域は、そもそもが地域で子供を育てるという理念がかなり浸透している地域だと思います。いろいろな方が学校に関心を寄せていただいていますので、そういったものについても応えていけないなというように思っているところでは。

下の表は、総合的な学習の時間をもう1回、前期課程と後期課程一貫したものと捉えを見直したものです。1、2年から一番下のコンセプトを見ていただきますと、「親しむ」「気付く」「考える」「考え、行動する」と、キャリア教育にしても、ふるさと教育にしても、最終目標は社会的自立、職業的自立に向かって進まないといけないというように思っています。そういった自立に近づく、あるいは地域貢献につながるものというように整理をしています。

今日は4年生のところを見ていただきます。少し字が小さくて見えにくいと思いますが、『玉湯川とわたしたちの暮らし』というような単元名をつくっています。そして、伝え合う学習の言語活動の柱としては、新聞づくりを通して発表していきます。こういったところを見ていただこうと思っています。

ふるさと教育も、調べ上げたところ、玉湯川に行って地域の方あるいは専門家に教えていただいて生物を見たり、「こういった生きものがいると川がきれいだよ」とか。「汚れているよ」とか、そういったものを教えていただく時間を通して今日を迎えています。なかなか十分に見ていただく時間はないかもしれませんが、どうぞまた見ていただいて御意見をいただければというように思っています。よろしくお願いいたします。

以上です。

○成相副教育長

ありがとうございました。

今、説明を聞かれて、もう既に聞いてみたいことをお持ちの方もおられるかもしれ

ませんが、授業を見させていただいて、意見交換のときにまたそういった時間を取り
ますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは視察のほうに移りますが、何か事務局から連絡がありますか。

……………発言なし……………

それでは、会場のほうに移動をしたいと思ひます。よろしくお願ひします。

……………視察中……………

○成相副教育長

それでは、御視察いただきましてありがとうございました。学園のほうも授業提供
をありがとうございました。

それでは、意見交換に移らせていただきたいと思ひます。

先ほどの前田校長先生からの説明、そして視察等を踏まえまして、御質問や御意見
などありましたらお願ひしたいと思ひます。

はじめのところで、市長いかがでしょうか。

○上定市長

ありがとうございました。大変楽しく過ごさせていただきました。あと、何か元氣
をいただきました。

少しまじめな話としてさせていただくと、最初に見させていただいた英語の ICT の
授業は、どうしても自分のころと比べてしまうので、若干時代錯誤なのかもしれませ
んが、昔でいう中学 1 年生があそこまで堂々と前に立って英語でしゃべるといふ、そ
ういったことができるのかというのがまず驚きでした。多分あそこでいろいろなもの
が身に付くのだろうなと思つたのです。自分の写真とか自分のつくつた表紙を見なが
らプレゼンテーション、それをみんなの前です。しかも英語であるといふ非常に高
度なことを、多分 7 年生が自分ですごく高度なことをやっているなと思わずにやっ
ているといふのがすごく意味のあることだと思ひました。

もう 1 つ申し上げると、自分の身近なことを英語でしゃべられていますよね。「Hello
Mike」ではなくて、自分のことなので、私がすごく重要だと思つたのは、例えば中で
「paper folding」といふ言葉があつたり、「unicycle」といふ言葉があつたり、この

言葉というのは多分普通は知らないのです。ですが、「折り紙ということを何て言うんだっけ」という、自分の生活の近くからの発想でその英語があるというのはすごく重要だと思うのです。

「delicious」という言葉を使っている子がいましたけれども、例えば私は子供を持つまで「yummy」というのがおいしいという意味だと知りませんでした。そういう生活の中にある英語みたいなアプローチで英語の授業が組み立てられているというのはすごく意味のあることだと思うのです。

もう1つ欲を言えば、多分 ICT というか、今回は電子黒板でしたけれども、あれはもっと使える余地があるのだろうなという可能性は感じました。それこそ「自分はYouTube が好きだ」というように言っている子が何人もいましたけれども、YouTube の著作権の問題は置いておいて、YouTube の何かを流しながら授業をすとか、それが英語であっても良いと思いますし、ほかにもいろいろあると思いますが、そういう動画だとかを取り入れながらやる可能性というのはすごくあるなというのも感じたところでした。

もう1つは、4年生のほうのふるさと教育ですけれども、玉湯川について皆さん見ていらっしゃって、私も最初に COD が何か分からなかったのですけれども、それを活用しながら玉湯川の水質についてという、とても自然環境という意味もそうですし、ですから、先ほどもおっしゃっていましたが、昔でいう理科なのか社会なのか国語なのか、そういったものが複合的に学べる機会だなというように思いました。

新聞をつくるというのは、つまりは相手に対して伝えていく、それをまたこれもプレゼンテーションされていたので、非常に総合格闘技的ないろいろなものが詰まった授業だなというように思いましたし、これも ICT に飛んでしまうのですけれども、例えば電子黒板やモニターに出して、こうやってみんなの前で説明するのもまた良いのだろうなというように思いました。そういうことでまたいろいろ改善点・指摘をみんなから受けるというのも、先ほどの7年生と4年生を合わせたような形ですけれども、そういうのもあるのかなというように思いました。

ですから、子供たちがすごくいきいきと外向きに、伸びやかに、自分の中でこうやって勉強しているのももちろん重要だと思うのですけれども、自分が習得したことを外に向けて発言すること、よく言われますよね。自分で覚えたことではなくて、それを友達とかに教えて身に付くことがとてもあると思うのですけれども、外向きに発信

できる能力、習得して発信するということの一連の流れというのを ICT を上手く絡めながらやっていくことができるのではないかなと、とても可能性を感じた視察でした。ありがとうございました。

○多々納委員

本当に今日は良い授業を見せていただいてありがとうございました。4年生と7年生の発達の違いと申しますか、もちろん授業の内容も違いますし、状況も違うのですが、発表するという点を見ますと、発達の違いというのをすごく感じました。

英語のほうは、今、市長がおっしゃいましたように、考えてみると7年生というのは中学校1年生で、あれだけ発表できるというのはすごいなと思ったのですが、今、英語は4年生からですね、確か。ですから、アルファベットを書くとか読むとかというのは十分ではないかも分かりませんが、4、5、6、7という、そういう学習過程を見ると、今の子供たちは自分たちの時代と比べてやはり違うなというのをはっきり感じたところです。

指導される先生がすごくベテランの先生だなという、子供たちの様子もしっかり掴んでおられるし、小さい声で発表したり、あるいは全くしゃべれなかったりという生徒がいました。新人の先生に、失礼なことを言うかも分かりませんが、どう対応したらというのがあると思うのですが、すごく上手く、その生徒が傷付かないように、これだけ学習しているということをきちんとほかの生徒に伝えながら指導されているところはさすがだなと思いました。

先ほど市長もおっしゃいましたけれども、ICT という点でいえば、全部の授業をフル活用というのはもちろん難しいこととは分かるのですが、今回の発表に関していえば、「my favorite が何か」ということを絵やイラストで紹介されておりましたが、何かもう少し活用すると自己紹介を聞く子供たちもよく分かったのではないかなという、そういう個人的な感想を持ちました。やはり電子黒板があることの良さというのを痛感させていただきました。

それから、4年生のほうの授業ですけれども、急に私たちが入っていったにも関わらず、私たちのことをほとんど意識せずに、自分たちの発表したいことを発表して、また、それを聞いている友達もよく評価をしておりました。

私が拝見したところは、新聞を発表して、最後に新聞の内容に関わったクイズを作

ってしまして、参加している私たちもそれに手を挙げて、間違いか正解かという、そういう参加型の発表の仕方だったので、すごく楽しくて、発表しているほうも良い評価をもらい、聞いて付箋に評価するほうも良い評価ができる。そういうすごく良いサイクルができて、「この時間で交代しますよ」と指導の先生がおっしゃったのですが、交代せずに、このまま次の時間も発表したいというような、まさに子供の側からの学習意欲がすごく示されていたので、興味深かったなと思います。

恐らくこの前提の玉湯川の学習には、地域の方々とか、あるいは実際行って観察したりとか、いろいろなそういう授業を支える方々がたくさんいらっしゃるのだろうなということが見える授業で参考になりました。このことを学んだ子供たちが、来年・再来年、将来にわたって、玉湯川を見ながら、学習したことを自分の生活の中やいろいろなところで生かしてもらって、地域を思う大きな糧にしてもらえる授業ではないかなということを感じました。

本当にありがとうございました。楽しい授業で、私も時間があればもっと見せていただきたかったです。そういう印象を持ちました。

○原田委員

今日はありがとうございました。私もずっと玉湯に来たかったので、すごく楽しみに来ました。7年生は英語だったのですけれども、ちょうど私には中2の娘がいて、先週自分の好きなものについて書くという英語の宿題をもらって帰っていました。うちの子は明太子パスタが好きだということで、明太子パスタについて、それを5文字以上を使わなければだめだということと、あと、「when」とか「if」とか「because」とかを使うと点数が上がるということでした。

良い例と悪い例とあって、加算されていく方式らしく、いろいろたくさん文章を書くプラスになる。しかし、「very very very much」とか、veryをたくさんつなげてただ長くするとかだと下がるとか、そういうことを言っていて、今日の1年生の授業で文章を作るということを一段階やっているからこそ、中2の文章がまた少し難しい、1つ上の文章になって出てくるのかということにすごく感じました。

自分で単語を家で調べてきて、単語をノートに書くのはOK。その単語を見ながら文章をつくるのは教室でつくらなければいけないということで、1回つくってはみるのですけれども、先ほどおっしゃったように、自分のことなのでとても考えやすいとい

いますか、英語にしやすいというか、「皆さんはどういうパスタが好きですか」という文章を作るときも、「何だっけ」と考えながら、「what、what」と言いながら、「あっ、What kind of だ」と急に言うものですから、そういうのも身に付いているのかと思って、やはり自分の体験とか、そういうものを組み合わせることによって、言語の授業というのはさらに身に付くのかと感じました。

これがまた ICT ともつながるといことで、うち子の学校の英語の先生も結構 ICT を使われるのですけれども、チャット機能というのを使われたりとかもするので、今日の授業で、結構みんなが感想を書いている部分があったと思うのですけれども、そういう部分を ICT 化したら、みんなの感想をそのままタブレットで見ることができたり、そういう使い方もしていくのかなというように感じました。

小学校 4 年生のほうは、うちの息子がちょうど小 4 なもので、同じように見てしまうのですが、第一印象では「しっかりしている」と思っで見させてもらいました。やはり玉湯学園になったということもあって、多分みんなが結構ピリッとしているのではないかなというのもありまして、うちでいうと幼保園ができたときに、娘が第 1 期生で入ったのですけれども、「新しいところに自分たちも入るのか」となると、一区切りがついて、結構「しっかりしなきゃ」という気持ちが子供たちの中にも出てくるようで、幼保園のころもその学年はすごくしっかりしていたなという印象がありまして、今日の小学校 4 年生のクラスもそれと同じような感じを私は受けました。

発表とかもすごくしっかりしていましたし、みんながきちんと自分の意見を持って発表しているなというところにすごく感心しました。

また、題材が自分の住んでいるところの川ということで、その場所に行って体験しているというのが、やはり実体験を持っているというのが大事で、紙の上で「ここにこれがあって、この川がね」みたいな説明であると、やはりあまり考えが入っていないだろうなというように思いました。ですから、結構市のふるさと教育という「松江城」と言われるのですけれども、松江城も確かに大事なのですが、そこにいくまでのもっと身近な自分のそういう川を対象にしているというところがすごく良いことだろうなというように感じました。

○金津委員

非常に良い経験をさせていただきまして、ありがとうございました。

私が感じたのは、木の香りがして、本当にすてきな学校だなと思いました。

7年生の授業なのですけれども、やはり当時私が中学1年生のときの授業とだいぶ違って、やはり言語教育であるスピーチなどということにこれから重きを置いていかなければだめだということであるとか、あと、自己表出をできるように、国際的には「日本人は何にも自分のことを言えない」みたいな部分があると思いますので、そういう面であるとか、やはりビジュアルの時代ですので、電子黒板をあのように利用してやっていくという非常に良い授業だなというように感じました。

それから、やはり4年生から英語をしているからですか、原田さんとも話していたのですけれども、英語のカリキュラム的にも、疑問文とか動詞の活用とか、いろいろ感心しまして、このように英語の教育が早まっているというのは非常に良いことだなと思いました。

ただ、もう一步、ひょっとしたら電子黒板の使い方というのは、もっと突っ込んだら工夫ができるのではないかなとも思いました。

4年生のほうは、これも非常によく言われるのが、「日本人というのは、海外に行つて、日本のことを全然知らなくて、恥ずかしい思いをして帰ってくる」と。それで初めて日本のことを勉強しようとして、それで初めて日本のすばらしさを知るというようなことを、よく留学した方が帰ってきて必ず言われます。そういうことと同じで、やはり知ることが愛着につながるの、非常にこういう授業というのはすばらしいなと思いましたし、めあてのところで、伝え方も良いところを見つけようという、それも非常に良い視点の授業だなというように思いました。

あと、これは今回のこととは関係ないのですが、子供を見て世の中の変化が見えるというのを非常に感じて、「K-POP がすごいな」と思ったのと、「テレビよりYouTube なのか」ということとか、若者のテレビ離れとかよくいわれますけれども、YouTube はすごいなと思いました。

それと、漫画を描く子が何人かおられて、世界に羽ばたく漫画家になってもらえたら良いなと思って、今、日本の漫画文化というのは世界に誇れるものなので、そういうことも感じました。

4年生の教室では、後ろに飾ってあったヘンテコ山の絵というのがすばらしくて、個性が本当にすごく差があつて、どうして大人になると個性の振り幅が少なくなつていくのかなと思ったりもしました。

非常に楽しく見学させていただきまして、ありがとうございました。

○塩川委員

それでは、失礼します。久しぶりに児童生徒の授業を見させていただきまして、ありがとうございました。

本当に4月開校ということで、いろいろな御苦勞があったと思いますが、前田校長先生、両教頭先生のリーダーシップの下、非常に順調なスタートが切れているという第一印象を持ちました。

特に、まずは教職員同士の人間関係づくり、その辺りでいろいろ御苦勞されたのではないかなと思っています。そして、教職員から児童生徒への人間関係づくりや、大谷小学校との統合もあり、いろいろ御苦勞されていたのではないかなと思っています。

まず、4月に新しい学校になって、子供たちが張り切って、目をキラキラさせている姿で今の状況が分かりました。人間関係づくりというのが一番大事なところだと思いますが、特に小学4年生の授業を見させていただいて、ギャングエイジといわれる学年だと思いますけれども、授業に向かう姿勢、態度、意欲など、非常にいきいきとした姿であったと思います。

ふるさと教育ということでの、今日の授業提供だったわけですが、先ほど金津委員さんから出ましたので、敢えてお話をさせていただきますけれども、私も二度だけ海外の日本人学校へ勤務させていただきまして、30数年前にオランダ、それから退職してから4年前までベルギーのブラッセル日本人学校に勤めさせていただきました。先ほど金津委員さんが言われましたように、やはり外から見て初めて足元が分かると思いますか、海外の日本人学校に勤務して、日本のすばらしさ、良さ、これを再認識できたことが、一番の私自身の収穫ではなかったかなと思っています。

今の子供たちに置き換えますと、今日は玉湯川の調査ということだったのですけれども、調査してみて初めて身近にある玉湯川のすばらしさというのに気づきます。普段さりげなく見過ごしている地域の良さ、そういうものを一つひとつ確認していくことがふるさと教育だと思います。地元の良さ、誇りと愛着を持つ、そういう小さな積み重ねがふるさとを愛する気持ちになっていくのではないかなと思っています。

やはり地元でずっと過ごすことももちろん大事なことですけれども、市長のお話の通り、視野を広げて、外から見る機会、改めて良さを知るといことも大きなふるさ

と教育の視点かなと思いました。

それから、7 学年の授業についてです。これも人間関係づくりといいますか、なかなかしゃべれない生徒、声の小さい生徒もいましたが、それを温かく見守る雰囲気、これはすぐにできるものではないと思います。先生の支援はもちろんですけれども、いろいろな生徒がいる状況の中で、しっかり自分を表現できています。なかなかしゃべれないとか、言えないとかはあると思いますが、みんなの前に出て発表すること自体が、クラス全体が受け入れていることだと思います。そういう雰囲気や土壌があるのではないかなと思います。そういう一場面を見ましても、すばらしい学級経営がなされているのではないかなと思いました。

順調なスタートが切れていると思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

○藤原教育長

私の感想を少しお話させていただきたいと思います。

2 つのクラスともクラスとしてのまとまりがあって、本当に授業がしっかり行われているなという印象を受けました。

最初の英語の授業については、小学校4年生ぐらいからネイティブな ALT さんがついて授業を受けておられるということもあって、耳から入ってきていると思うのですが、これも、これがだんだん受験用の英語を覚えなければいけなくなって、苦手になっていくという、日本の教育の問題点がそこにありそうな気はしているのですが、今日の授業を見ていても、はっきり本当に自分の思っていることを伝えようとして話している子は意図がきちんと伝わってくるし、下向いて1回も目を上げない子もいれば、声も出なかった子もいて、本当に多様な世界だなというように思っているのですが、結局相手に自分の思いをどうやって伝えるかというところが外国語を使うときのポイントです。本当に身振り手振りで声は大きくして、表情も豊かにして、相手にどうやって自分の心を伝えようかというところがポイントだと思うので、もう少しその辺りの力強さみたいなのが体験できると良いなというのは感じたところです。

そういう意味で、ALT さんと英語で会話をしているときなどは、分からなくてもとにかく自分が思っていることを相手にどうやって伝えようかというところを一生懸命やるので、そういうところをしっかりと、物怖じせずに人前で話せるというところもしっかり身に付けていってほしいなというように思いました。

それこそ 40 年、50 年近く前、私が中学校 3 年生のときに学校が統合しまして、2 年生までは若干訛りのあるような英語を習ってきた人間が、3 年生になったらいきなり先生が授業中は全部英語で、「日本語禁止」と言われて、もう泣きそうになってやった記憶があるのですけれども、あの経験はやはり今も生きていまして、日本語がしゃべれなくても、とにかく何でも良いから英語の単語を並べてでも自分の意図を伝える、あの体験というのは今にも生きていくというように思っていますので。

また、人前に立って、正面向いてしっかりハキハキと自分の思っていることをどうやって伝えていくのかということ、是非学校では実践して学ばせていければというように感じました。

それから、ふるさと教育の関係は、私は先ほどの英語というのは、あくまでも手段ですので、では何を伝えるかということが、第一義的にはこの松江のふるさとの良さということだと思っています。外に出たときに、きちんと自分のふるさとの良さを伝えられる、そういう教育・学習をしっかりしておけば、地元に対する愛着もできるし、「松江はこんなに良いところだ」ということを外に出たときにしっかり話ができる。そのためにもこういうふるさと教育というのをしっかりしていく必要があると思っています。

先般の議会の質問の中で、「松江の特徴として、水辺教育というのを入れたらどうか」という意見が出まして、調べたら結構総合の学習の時間で、地元の水に関しての環境を学んだり、それこそ中身だと、ゴズを釣って、実際に料理して食べてみるとか、そういう授業もたくさん取り入れられていまして、松江らしさというところの発信の中で、そういう水辺教育というのもあっても良いのかなというように思いました。

それから、新聞という手法を使った授業というのは効果的だなというように非常に思いまして、当然ですけれども、最初は個人の意見というのがあると思うのだけれども、それをまとめていく作業というのは非常に意義があることかなというように感じて見ておりました。

余談ですけれども、今は何でもスマホでそういう仕組みがあるのですけれども、会議で先生の講演を聞きながら、スマホで質問を先生に送るアプリというのがあって、それがどんどん先生のパソコンの中に入ってくるのです。そうすると、「me too」なら同じところをやるし、そうやって講義が終わるころには、「何か質問がありますか」という話ではなくて、そこにすごく質問が集積しているので、そのことを「これをきち

んと答えてあげなければいけない」というようなシステムがあるので、授業でもそういうのが使えるのかなと思って実は見ていました。タブレットでそういうことができればとても良いことかなと。もちろん個人の理解度も分かってくると思うし、分からないことが声に出して言わなくてもきちんと先生に伝わるというのも良いのかなというように感じたところです。

あと、松江は今年の3月に、『松江の文化力を生かしたまちづくり条例』という条例をつくったのですけれども、これは松江の歴史・文化・伝統・芸術をもう1回再検証して、良いところはしっかり守りながら後世に伝えていくということなのですからけれども、そこの中でもやはり教育が果たす役割というのは非常に大きいというように思っていますので、そういうところもしっかりお話ができれば良いなというように思っています。

最後に、私が一番びっくりしたのは、先生が左利きで、板書にマジックのようにきちんと筆順通りに字が出てきて、なおかつ字が美しいというのは、これはすばらしいなと思いました。

以上です。

○成相副教育長

ありがとうございます。

今、一通り皆さんに感想等を言っていたところだと思います。ほかの方の感想を聞かれて、「こういうことを思った」とか、「こういうことをもう少し聞いてみたい」とかがありましたら、どんどんおっしゃってくださいませ。

○原田委員

私の話ばかりで申し訳ないのですけれども、私が小学校のころは、もっと遠足がたくさんあった気がするのです。歩いて行く遠足がたくさんあって、その歩いて行く遠足でふるさとを学んでいたという感覚がありまして、例えば宍道だったら近くに神社があって、そこに大きい石があるのですけれども、「この石は元々猪だったんだよ」と言われて、「その猪が通った道だから猪道の町で宍道なんだよ」みたいな話を聞いたときに、すごく感動したといえますか、「この石、猪だったんだ」みたいな感じで、すごくインプットされて、その神社にもまた愛着が沸くといえますか、そういうのが 4

年生だったと思うのですけれども、遠足でそこまで行って、その石を見て、その後総合運動公園に行って、みんなでお弁当を食べるとい、その楽しい遠足の中にそのイメージが組み込まれているから、余計に何か良いイメージとしてインプットされているというのがありまして、最近あまり遠足と聞かないなと思ひまして、最近の学校は遠足というのは特にとられていないのですか。

○太田学校教育課長

やはり学校現場ではやらなければいけないことがたくさんあって、この遠足というものをやめて、例えば社会科の授業の一環として地域に出かけるとか、総合的な学習とか、生活科の時間で、遠足というような形で出かけることが多いです。特に遠足で出かけるということはあまりないのではないかと思います。

○原田委員

そういう感じでイベントごととして組み込まれているから、電車に乗ってどこかに行くというような、大きいイベントごととして捉えがちというか、もっとそれが身近な、歩いてどこかに行くぐらいの程度のものになっても良いのではないかなと思ひました。どちらも大事ですから、時間がないというのが一番だと思ひのですけれども。

今やりたいふるさと教育につながる部分というのがそういうところなのかなというようには感じました。

○上定市長

私も同じようなことを思ひていまして、先ほども原田さんがおっしゃっていただひていりましたが、見るだけではなくて、実際に行つて経験をしたということが、結局自分の身に付いていと思ひのです。

先ほど藤原教育長から水辺の教育という話があつたのですけれども、水の都と言われ、玉湯川も含めてですけれども、例えば宍道湖というものすごいキラコンテツがこの松江はあるわけです。ですけれども、皆さんどうか分かりませんが、いまいち私は宍道湖と一緒に育つた記憶がないのです。なぜかなと思ひたら、宍道湖の風景は写真を撮つたりして、「きれいなところだな」とは思ひのですけれども、そういう意味でのシンパシーは感じるのですけれども、ちゃぷちゃぷした経験がないのです。昔は

泳いでいたらしいですし、実際に pH 的には泳げるらしいのです。きれいはいきれいなのですけれども、やはり親水という親しむ水という言葉がありますけれども、そういう実体験が子供のときにあるとないとで多分大きく違うのだらうなと思うのです。

若干宣伝ですけれども、今、ホテル一畑がリニューアルしましたけれども、その南側に千鳥南公園というところがありまして、そこでちゃぷちゃぷ空間もつくる予定なので、そういう意識的な取組をすることで、あと、今、松江の青年会議所などが SUP という、Stand Up Paddleboard というやつですけれども、そういうものもこれからやろうとしているので、そういう取組を通じて、何か自分のものにしていくというか、風景ではなくて、自分が実際に何か経験をしたという思い出を持って、「あそこはやっぱり良いところだな」というように思えるかというのは、そういう意味では、今回玉湯川に実際に行って、そこで水を汲んで、pH 値か分かりませんが、見てということはずごく重要だなというような気がします。

○原田委員

思い出しました。私も小さいころに、地域の子供会で宍道湖に行ってシジミを拾うという、お母さんたちが先に撒いといて、みんながたくさん拾えるという、そういう体験をしました。最近そちらの自治会のほうの子供会の活動も縮小の一途を辿っていて、ボウリング場に行ってボウリングをして帰るとか、そちらの方面に行っているから、ふるさと教育にはやはり地域の人が必要ですよ。

○藤原教育長

松江は特に水辺に本当に溢れているので、特に小学校の総合の時間は結構水辺についてというのが本当に多くて、先ほどおっしゃったように、ふるさとの身近な川というのは一番遊び場所であり、学習場所でもあるので、そういうところで、安全の問題もあるのですけれども、やはり体験することが地域への愛着というものを育てていくのだらうなというのは本当に思います。

堀川のところなどは、本当に生態系の調査というのをよくやっていたり、一時堀川の水を抜いて生態系を調べるとか、いろいろな取組をやっておられて、そういうことというのは本当に楽しいでしょうし、やはり体験型というのはいろいろあって、松江の城西でしたか、地元の人たちが科学実験クラブというのをやっておられて、私はあ

れが大好きなので、あれはすごく興味・関心を持たせて、「なぜなんだ」というのを勉強するのにすごく良い取組だと思います。そういう地元の人たちが子供たちのためにいろいろなことをやってくれているので、そういうのはしっかり活動を支援する補助金などもありますので、よくそういうのを使って、学校の子供でもあるのですけれども、地域の子供として体験してもらおうというのも良いことではないかと思えますけれども。

○多々納委員

ICT 教育についてお尋ねしたいと思います。今日も英語の授業を拝見させていただきました。ありがとうございました。

松江市は他の市町村に先駆けて電子黒板やタブレットを導入していただいております。また、先ほどの市長のお話だと、教育を最優先の課題にして進めたいという、非常に嬉しいお言葉をいただいておりますし、今年度に入ってタブレットの不足分とか、子供の数が増えてとか、あるいは小学校の2年生にも電子黒板を入れていただくとか、非常に教育環境が充実してきておりますので、大いにそれを活用して教育していただきたいなと思います。

先ほど申しましたが、全部が全部使えるわけではなくて、良い面ともう少し工夫するともっとよく使えるとか、「いや、これは手書きのほうが良いな」とか、いろいろあると思うのです。今日、せっかくの機会ですので、そういう ICT 機器が入ってきて、現場の先生方が「もっとこのようにしてほしい」とか、「このようであればもっと使えるな」というような、そういうことがあれば是非お聞かせいただきたいなと思いますことと、子供たちへの教育機器として ICT を使うと同時に、先生方も研修の機会としても是非使っていただきたいと思います。

例えば、昨年度松江市で行った教育研究集会は、毎年行われておりますが、コロナの関係で参加者を30人くらいに限って開催されました。あれがもしリモートでも同時に配信していただければ、私たちも研修を受けさせていただけるし、あるいは直接参加できない先生方が参加できるメリットがあると思います。そして、リモートでの参加も、やはり研修1回というような、そういう研修の実績としてカウントいただきたい。よくいろいろな研修会の御案内をしましたときに、公的に認めると、旅費を支給しないと出張にならないというお話も聞いたりするので、リモートの場合にはその心配が

ありません。是非教育機器として子供たちにも大いに使ってもらいたいし、先生御自身にも使っていただけるような工夫を御検討いただけたらありがたいなと思います。よろしく申し上げます。

○成相副教育長

ありがとうございます。

たくさん聞いていただきました。これからもっと ICT をどう使っていくかという使い方について。それから、使う側の研修の機会。それから、リモート活用等についてということでよろしかったでしょうか。

○太田学校教育課長

全て満足にお答えできるか分かりませんが、まず、1 つ目の現場の声ですが、現在タブレットを配備したということで、今、設定作業を行っておりまして、実質使えるのは全市とも 2 学期以降ではないかなというように考えているところです。それまでのところで、前田校長先生に御説明いただきましたけれども、各学校でいろいろ工夫をしていただいて、研修を校内でやっていただいているという現状がございます。

ただ、これを学校任せにははいけませんので、教育委員会のほうで積極的に情報提供して、タブレットの使い方については、本当に今リードしていますので、このメリットを生かして進めていかなければいけないのではないかと考えているところです。

タブレットにつきましては、子供たちには全員ありますけれども、教員分が電子黒板の数しかございませんので、なかなか研修の機会というのが十分に設定できない状況があります。このところが課題であるのではないかとように思います。今後、タブレットにつきましては、いろいろ考えて、学校現場のほうに情報発信していかなければいけないというように考えているところでございます。

それから、リモートでの研修という質問でございますけれども、昨年度に比べまして、いろいろなパターンで研修を行うことが増えております。ただ、コロナが昨年度ほど心配されていない部分もあって、研修については例年のような形にだんだん戻りつつあるという状況にあります。その辺りのところも含めて、リモートの良さとか集

合型の研修の良さというのをいろいろ考慮しまして、実際にやっていかなければいけないというように考えているところであります。

以上です。

○多々納委員

関連した質問です。タブレットの数が電子黒板の数しかないというなお話でしたけれども、今年度のところで全部の先生方に1台ずつタブレットを購入するという、そういうお話ではなかったでしょうか。

○太田学校教育課長

教員が1人1台持つのはこれから要求をしていくところです。電子黒板の数だけはあるのですが、全員に行き渡っている状態ではありませんので、今年度のうちに要求を。通るかどうかわかりませんが、市長にお願いして、と思っているところでございます。

先ほどのICTの質問について、学校の立場から、後藤教頭先生のほうに少しお話いただきます。

○後藤教頭

失礼します。教頭の後藤でございます。

今日の授業の補足も含めて、少しタブレットの活用やICTの活用について御説明させていただけたらと思います。

今日見ていただいたのは、皆様方からお話いただいたように、プレゼンテーションの一部としてあのような映像機器を使って、より効果的に自分の意思を英語で伝えるための補助としてICT機器を使わせていただいておりますが、実はこの授業を見せるのか、もう一つ前の授業を見せるのかを内部で少し検討させていただきました。

本当に私たちが見ていただきたかったのは、もう1つ前の授業でございました。これは何をしたかという、タブレットで自分がしゃべっているスピーチの映像を自分で録って、それを自分で見て、聞いて、正しく伝わっているかどうかをそれぞれが判断をしてやると。そして、その練習を生かして今日のスピーチがあったということでございました。

ただ、実際に先行したクラスでやってみると、7年生で発達段階のこともあって、自分で自分の映像を見ながら聞くことをすごく恥ずかしがって、授業がうまくいかなかったこともあって、その判断もあったものですから今日は少し違う授業を見ていただきましたが、そういうICTの使い方をいろいろ工夫して取り組ませていただいているところです。

昨年から少しずつ機械を入れていただきまして、今年、お陰さまで玉湯学園についてはほぼほぼ、数台ほどまだ足りないのですけれども、1年生から含めて1人1台機械を入れていただいて、これもほかの学校さんが今どのくらい進んでいるか分かりませんが、うちの学校独自の利用のルールだったり、それから学園のGIGAスクール構想みたいな、「この子供たちには、こういうことをメインにやっ払いこう」、「この子供たちには、これを応用して伝えることをメインにやっ払いこう」というような計画を立てて、今取り組ませていただいているところです。

それから、今、多々納先生から御指摘の、学校側として「このようになつたら良いな」と思うところはいろいろあるのですが、これは誰に向かって言うわけでもなく、聞いていただきたいと思うのですけれども、今、情報機器を持っていろいろな学習をしているわけなのですけれども、大変高価なもののために、取り扱いをすごく慎重にさせています。ですが、小さい子供から大きい子供までいて、大きい子供などは上手に使えるかもしれませんが、小さい子供などがそれを持って外に出て何かがあったときに、どう壊れたものに対応するのかということに大変苦慮しておりますが、そうは言いながらも、宝物みたいに持ち歩いてやらせるのでは勉強にならないので、使い倒す。校長先生はどうおっしゃるか分かりませんが、壊しても良いくらいのつもりで、使い倒すぐらいのつもりで使わせないと教育効果は上がらないのではないかと私たちは思っています。ですから、そういった事故が起こったときの対応をどうするのかということは一つ課題かなと思っております。

それから、もう1つは、今回コロナのことで休校などが続いたときに、先ほど委員もおっしゃられたように、リモートでこれを活用して学習ができないかということもずっと検討しております。ただ、これもセキュリティなどの関係があつて、おうちのネットワークにこれをつないで学習するということはなかなか難しいかなと思ひながらも、せつかくこの機械があるのに、何かがあったときに、例えば学校に出づらい子供がうちの学校にもおります、不登校の子供などが。そういう子供たちがこれをうち

へ持って帰って、担任の先生と zoom でやり取りしながら勉強するなどというようなことができないだろうかなといったようなことも思っているところでございます。

それから、先ほどの zoom の話に含めて、本校でも研修会などで教員が zoom を使って、よそのいろいろなところとつなげて研修会をさせていただいたり、会議をさせていただいたりしております。この間、うちの学校をメインに PTA 連合会の総会をさせていただいたときに、いろいろなお話を伺って「そうなんだ」と思ったのですけれども、例えば 20 箇所とか 30 箇所をつなぐ分であればそこまで問題ないかもしれませんが、これがものすごくたくさんだと、ネットワーク環境の問題でなかなかスムーズに連携ができない、つながらないというようなお話も聞きまして、これはなかなか技術的な問題もあるので難しいかなと思うのですが、例えば全校生徒が zoom につないで何かをするみたいなことをもしも考えるとすると、恐らくボトルネックになって、外のインターネットの回線との接続の容量の問題かなと思っておりますが、少しそれは難しいのではないかと考えています。そういう課題もあって、それは技術的に何とか解決していかないといけないかなと思っております。

現場の声ということで、お話をさせていただきました。

○成相副教育長

今、一気に教頭先生がお話をされましたが、使っているほうはいろいろな課題が切実ですので、やはり現場の声を聞きながら進めていくことが大事だなと思っております。ころだというように思われます。

○原田委員

それは学校単位なのですか。学校単位で皆さんが動いていらっしゃるのですか。市から全学校に対して「こういう感じで」という指針があるのか、「学校独自で、どうぞ御自由に」という感じなのか、どちらの方向でいかれているのですか。

○成相副教育長

学校独自のそれぞれの学校で考えるというところもちろんあるのですけれども、市立の小・中・義務教育学校全部の教員同士が集まったメディア部会という、各校からメンバーが出て集まって「どうしていくか」と考える部会もありますので、そこと

連携を取りながらだったり、それから、整備の面では、教育委員会のほうから「こういう形でやってほしい」というお願いをしたりというところですか。ですから、どちらも含めて複合的にやっていくという形になるかと思います。

○原田委員

直接の授業の中身に関しては、結構学校ごとに先生が各自で考えられてという形でしょうか。それともほかの学校の同じ学年の先生とかと相談してやるとか、「こういうソフトが良いらしいよ」とか、例えば「あの先生がつくったこの分を、そちらでもどうぞ」みたいな感じで使えるような感じになっているのかとか、そういうことはどうなのですか。

○成相副教育長

今、原田さんがおっしゃられたことは全部入っています。教育委員会が「こういう使い方がある」と提示する場合もあるし、「この学校ではこういうことをやっている」というのをみんなに広めていくというのもありますし、どちらもあると思います。

○藤原教育長

先ほどのタブレットの中のどういう学習ソフトを使っていくかというのは大きな問題だと思っていまして、本当に多様なものがあって、それが学校ごとに違っていると、学びの内容の違いということにもなってくるので、大きな方針については、先ほどのICTの委員会の意見を参考にしながら、一定の方向性は教育委員会として出していきたいというように思っています。使い方・活用の仕方というのは各学校の独自性というのがあると思うのですが、基本的なところはしっかりルールを考えていきたいと思っておりますし、タブレットを外に出すときの取り扱いについても、これも教育委員会として方針を出していくべきことだと思っておりますので、基本はやはりこちらで考えてお示しするという形でいければと思っています。

○成相副教育長

あつという間に時間がこようとしていますが、いかがでしょうか。

○金津委員

最後に1つ。これからタブレットがどんどん導入されていって、いろいろ教育の現場で使われていく中で、私自身、いろいろなことは先進的であってほしいと思っているのですが、その一方で心配もあって、世界で一番忙しい日本の先生たちが、特に今コロナ禍もあって、そういう対応とかもいろいろある中で、そのためにいろいろな研修だとか勉強だとかいろいろしないといけないと思うのですが、その辺りの負担感というのは少し心配しています。

○太田学校教育課長

現場の教員への御心配いただきまして、ありがとうございます。ですが、これはやっていかなければいけない課題だと思っております。特に全国的にタブレットを1人1台ということになりますので、これは松江市の教員だけの問題ではなくて、やはり日本全体の問題でもありますし、授業が劇的に変わらなければいけないという認識もありますので、この辺りはお願いをしてやっていただくということになると思います。

その結果、働き方改革につながれば良いものではないかなというようにも感じておりますので、先ほども言いましたように、しっかりと教育委員会のほうから情報提供をして、使い方などについては積極的に発信していきたいなというように思っております。

○金津委員

ありがとうございます。そういう声が聞けて非常に心強いなと思いました。

私どもの建設業でも、ICT 対応する工事というのがどんどん進んでいまして、その中で実際に起きていることを少しお話させていただくと、やはりそれに対していろいろ勉強しないとだめなこととかが増えて、今までやっていた業務にプラスになる、負担というのは確かに増えていて、その中でやはり個人差というのが起きてきているという問題がありまして、ですから、そういうのを乗り越えて、確かに先ほど言われたように、最終的には生産性の向上とか時短とかにも多分つながっていくので、これは乗り越えなければならないことなのですが、先ほど言われたように、そういうことが先生方の中でもそのようにつながっていけば非常に良いなと思っています。

○成相副教育長

ありがとうございます。

時間がきましたが、市長、いかがですか。意見交換を終わろうと思いますが。

○上定市長

言い出したらきりがなくて、言いたいことはたくさんあります。私も海外は長いのでいろいろその発想はあるのですけれども、今の話としては、ICTの活用は、得意な先生はICTを活用して、どのように教育できるかというようなアンテナをいつも張っていらっしゃると思うのです。ただ、得意ではない先生もちろんいらっしゃるわけですから、押し並べて、要は「あの先生、当たりだったよね」という感じではなくて、やはり全体として底上げを図っていく。特に今、黎明期なので、金津さんもおっしゃっていただきましたけれども、先生の負担があるのですが、勝手な楽観的なことを言わせていただくと、ICTを使って負担の軽減につながったり、働き方改革につながったり、例えば板書しなくても良いとか、前回の途中から始められるとか、そのような工夫がもしできるのであれば、そういう効率的な使い方・効果的な使い方というのをできるだけたくさん先生の先生に広めていただいて、やはり学校にいて、その先生にすぐに聞きに行けないとなかなか難しいですよ。そういう方が満遍なく配置できるようなのが理想型ではありますので、やはり今は黎明期なので、みんなで知恵を出し合いながら、より良い方向に向けていくというのをまずは仕組みとしてつくっていくことが重要なかなというように思います。

今日は皆さん活発にお話もいただきましたし、第2回はいつなのでしょう。非常に皆さん前向き・建設的にいただいたので、本当にありがとうございます。是非市としても、教育委員会としても、教育委員の皆様からいただいた貴重な御意見を踏まえまして、今後の施策について考えてまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○成相副教育長

ありがとうございました。

皆さんからたくさん御意見をいただいた中で、やはりICTをやることが目的ではな

いので、各教科・領域でどう使っていくかということがこれからの課題であるということとは皆さんに言っていただいたかと思います。

それから、ふるさと教育についても、その地域で生まれて育ったからといって、ふるさとのことを良く知っているかということとそうではなくて、やはり勉強しなければ自分のふるさとのことも分からないし、それから、勉強することでやはり愛着が湧くということをおっしゃっていただいた気がします。

それから、市長の最初の感想のところ、「元気が出ました」と言われたのですが、なぜ子供の活動を見ると元気が出るかということ、やはり子供の持つエネルギーや意欲や向上心、それから金津さんが個性の振り幅と言っていただいて、いろいろな個性がぶつかり合う。それを見るとエネルギーを感じるとか、自分がそのころの時代の自分を思い出すとか、そういうことでやはり元気が出てくるのだと思います。

その子供たちが持っているエネルギーが学校教育が進むほうに向かっていかなければいけないかなと、そこを大事にしてふるさと教育も ICT のことについてもやっていかなければいけないかなということを皆さんのお話を聞きながら思いました。

これで本日予定した議事を全て終了しましたので、第1回の松江市総合教育会議を終了いたします。長時間にわたり貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。これで終わりますので、気を付けてお帰りくださいませ。